

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 28 年度

事業所番号	2790800052		
法人名	株式会社 はなの街		
事業所名	グループホームはなの街		
所在地	大阪府大阪市東住吉区住道矢田1-6-10		
自己評価作成日	平成 28年 11月 1日	評価結果市町村受理日	平成 29年 1月 16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/27/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2790800052-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪府中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 28年 12月 16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設理念に基づき認知症になっても人権・尊厳・個性を尊重しながら最期まで自分らしく生きるために、お一人お一人と向かい合う姿勢を大事に高齢者の方々の生活を支援することを職員一同、常に思いを寄せながら努力しているところです。また、看護師が数名常勤しているため医療度の高い方(吸引・インスリン注射・胃瘻・床ずれ・人口肛門等)でも受け入れが可能なところです。精神疾患との混合型でも対応可能です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地にある、開設8年目の2ユニットの事業所です。玄関先には近隣住民により季節の花や果物が植栽されたり、地域の祭り・地蔵盆等にホーム駐車場を提供する等して地域住民との交流を大切にしています。8年目になり利用者の重度化が進んでいますが、各ユニットには看護師でもある管理者を配置し、その他数名の看護師を配置したり、夜勤者2名と宿直者も配置する等して、重度化や医療的な配慮の必要な利用者を支援しており、利用者・家族の安心だけでなく職員の安心にも繋がっています。管理者・職員は、最後までその人らしく自由に生きることが叶うようにと「①安らぎと笑顔を取り戻してくださるよう②地域の皆様にとって、人の命と尊厳について学べるグループホームに③笑顔が絶えない明るい家であること④介護のプロとして日々勉強し、考え、研鑽をつむこと」を「私たちの思い」として掲げて日々実践に努めている事業所です。今後更に期待できる事業所です。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所・フロアー入口に理念を掲示し、スタッフ会議など必要に応じて学習会を行っている。	管理者や職員は、理念をホームの運営、サービスの実践上重要なものと認識しています。法人理念の基に、「最後まで自分らしく生きるために①慣れ親しんだ生活スタイルを継続させ、日々の暮らしに＜喜びと自信＞を持てただけよう、お手伝いいたします②集団の中の一人ではなく、お一人おひとりの人権と生き方を尊重し生活の向上を目指していきます」をホーム理念として各ユニットの事務所・フロア入口に掲示し、スタッフ会議や研修時に理念の確認を行う等、職員間で共有しています。職員間ではこの理念を達成するための「私たちの思い」「年間目標」を具体的に分かりやすい言葉で作成して、日々介護実践に活かしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の夏祭り・施設前の地蔵盆のとき、駐輪場として駐車場を提供。 入居以前、施設の近所で暮らしていた方もいるため散歩のさい挨拶をかわしている。	ホームは、町内会に加入しています。 利用者と職員は、地域の夏祭り・地蔵盆等に参加し、町内会主催の清掃活動にも参加をしています。ホーム入口にある花壇には、近隣住民の協力で整備された季節の花々が咲いています。利用者は、散歩や買い物時に、入居以前に暮らしていた家の近隣の方と挨拶を交わす等しています。町内会からは「青年団に声をかけています」と気にかけてもらう等地域との繋がりが進んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	在宅介護をしている方からの相談・独居生活を見守るアパートの大家さんの相談に認知症実践者研修を受けた一人として一緒に考え問題を共有しながら認知症の理解を深めていけるようにしています。 地域に出向き具体的にはできていませんが相談があれば応じます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1年間の予定を立てて計画的に開催しています。奇数月の計6回開催。多くのご家族様に参加して頂き、様々な意見を頂戴しています。ご家族様から頂きました意見を元にサービスの向上にいかしています。	運営推進会議は2か月に1回開催し、議事録を作成しています。会議は、家族、民生委員、地域包括支援センター職員、ホーム管理者、職員等の構成となっています。ホームの状況、感染症、事故、苦情、行事、地域行事活動報告、研修報告、ホームの課題等議題にしています。参加者からグループホームの水害事故等について「はなの街での対策」に質問があり、管理者は防災・水害・火災の対策等を丁寧に報告する等して理解を得ています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	3か月に1回の東住吉区介護保険事業所連絡会と、グループホーム連絡会には積極的に参加し研修・意見交換を行っています。	市の担当課とはいつでも相談できる関係にあります。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議において報告・相談をして、情報提供や助言を得ています。この一年に市に報告する大きな事故はありません。3か月に1回開催される区の介護保険事業所連絡会やグループホーム連絡会に積極的に参加をして情報交換をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者自身のありのままを受け入れる事、そして、学習会では拘束しないことを徹底しています。その都度、認知症の理解を深めるための勉強会を行っています。	管理者・職員は外部・内部研修会で身体拘束廃止や人権について研鑽し、意識を高めて身体拘束をしないケアに取り組んでいます。他県で起きた障がい者施設の事件以降、利用者の安全を考慮し、1階玄関の扉は電子ロックで施錠しています。各ユニットへはエレベーターで移動しますが、エレベーターは自由に行き来ができます。外出希望者には、職員の見守りと付き添いで対応をしています。	職員と今後の施錠についての取り組みをどうしていくか検討されてはいかがでしょうか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切な情報・不適切なケアが虐待の始まりと考え、適切なケアが実施できるよう勉強会やスタッフ会議でカンファレンスを行っています。 また、職員がストレスを溜め込まない様に関係作りに努力しています。 テレビ・新聞などで取り上げられた話題などは積極的に話し合う。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	人権擁護に関する研修には必ず1～2人が参加し施設の職員に伝達講習をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時は必ず説明を行います。 不安・疑問のあるときは、その都度面談や電話で何度でも説明を行い理解してもらえるように努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不安・不満を表出できるような環境作りを心掛けている。入居者の表情や言動を見守りながら意思確認しています。ご家族との面会時は、それまでの状況を報告すると共に今の状態を理解していただくことと、特に変化がある場合には主治医からの説明も行っています。	管理者や職員は、利用者や家族の意見・要望が運営や利用者支援に反映する大切なことと理解しています。家族が運営推進会議に参加しやすいように毎回会議開催の通知を送付しています。家族は運営推進会議に参加し、意見や要望を出しています。また、職員は面会時において細やかにホームや利用者の状況報告をするなどして家族の意見が表出しやすいよう努めています。家族が気づき・苦情・意見を記載できるよう玄関入口に提案箱を設置しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回スタッフ会議を行い意見や提案を聞き取り入れるようにしています。職員からいろいろな話ができるよう風通し良い職場であるように心がけています。	管理者は、月に1回のスタッフ会議を開催し、職員が意見や要望を出せるようにしています。会議では、事故・ひやりはっと報告書の書き方、利用者に対する言葉遣い、夜勤帯の巡視・移乗等ケアの指導や業務等について意見を出し合っています。外部研修に参加した職員は伝達研修も実施しています。また、申し送りノートを活用し、意見交換を行っています。職員間には自由に意見を表出できる雰囲気があります。管理者は、職員のワークライフバランスに配慮した勤務体制となるように心がけています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日々の努力、具体的な実績、勤務状況を把握し、処遇へ反映、向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めています。 勤務希望は100%叶えるように努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や資格に応じて外部研修や施設内研修を行っています。 研修終了後は伝達講習という形でスタッフ全員に反映されるように努めています。 働きながら資格が取得できるように支援していきます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東住吉区介護保険事業所連絡会やグループホーム連絡会、またケアマネ連絡会等での交流を図り刺激を頂きながら次のステップにいけるように努力しています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時のアセスメントでニーズを把握し施設の生活に早く慣れていただけるように心がけています。 また、不安なことができる限り少ない生活が送れるように支援していきます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られた際には必ず施設見学を行い施設に対しての不安を解消できるように心がけています。 また、入居前・入居時・入居後に面談を行いご家族のニーズを聞き不安の解消に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、当ホームでの対応困難なケースは理解していただけるように説明しその状態に応じたサービスを提供している他の施設を紹介するように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として生活の知恵を日々の会話の中で教えていただいています。 また、洗濯物を干したり、取り込んだり、職員と一緒にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の意見や気持ちは大切に受容しながら、ご本人との関係を断ち切らないよう、共に支えていることを理解していただき何でも話せる関係作りに努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族は勿論、友人・親戚・ご近所様・町内会の方々がいつでもきていただけるように季節の挨拶にハガキを出すなどの支援をしています。お花見会・敬老会の参加を呼びかけ出来るだけ大勢の方を巻き込めるように心がけています。	近隣にある馴染みの駄菓子屋や喫茶店に職員と一緒に出かけたり、利用者の宗教関係の知人と勉強会へ出かける等しています。職員は年賀状を出す支援も行っています。ホームでは馴染みの関係が途切れないような支援に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間は、ほとんどの人がリビングで過ごしテレビを見たり、会話を楽しんだりしています。 自立度の高い人が、杖歩行の方や車イスの方に世話を焼いている姿が時折、見られます。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された場合は、定期的に様子を見に行っています。 他のサービスを利用された方は時々、面会に行き相談や疑問・不安等の話を聞きフォローできるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のケアプランは、ご本人・ご家族の希望をできる限り実現できるようにしています。 入居後は個別シートにてニーズを把握し支援できるように心がけています。	計画作成担当者は、利用者・家族から入居時に一人ひとりの思い、意向を把握し介護計画に活かしています。入居後は、個別シートで24時間支援記録に毎日丁寧に記録することで、利用者一人ひとりの思いを汲み取るようにしています。管理者・職員は、利用者の思いや意向に更に沿えるよう、普段の会話からも思いを汲み取るように努めています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集を十分に行い在宅での趣味・経験を活かして本人のできること・できないことを把握し活躍できる役割を日々の暮らしの中で探し行えるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を毎日の申し送りで把握しコミュニケーションを図りながら、受け持ちがそれぞれできる事に応じて生活リハビリを行い状態の維持に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	受け持ちが利用者の1カ月の総まとめを行い、それに沿ってモニタリングを行い、次回のケアプランに反映しています。	介護計画は定期的に見直しています。モニタリングは毎月行っています。モニタリングチェック表、介護記録を丁寧に記録することで利用者の思いや要望を汲み取っています。毎月担当者が利用者の1カ月の介護記録の総まとめを行い、それに沿って計画作成担当者がモニタリングを行っています。変化のあった時、統一したケアが必要な場合には医師、看護師、担当者、介護福祉士、計画作成担当者等様々な職種でカンファレンスを実施しています。必要時には都度計画の見直しを行っています。	介護計画の見直しについて、特に変化がなければ1年に1回の見直しとされていると聞きましたが、大阪府社協の外部評価ガイドラインでは、少なくとも6か月に1回以上の見直しをおすすめしています。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居初期は心身の様子をより具体的に記入することができるようにし、毎日の様子・状態を経過記録することでケアプランに基づいたサービスを提供しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	何か問題が発生した場合は、その都度ミーティングを行いニーズの把握に努め柔軟な支援ができるように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの神社に初詣に行ったり銭湯の足湯を楽しんだり、また公園で桜のお花見をしたりプランコに乗ったりして楽しんでいます。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までの生活と同じように在宅で診てもらっていた、かかりつけ医にそのまま引き続き診察を依頼します。 かかりつけ医が困難な場合は24時間対応可能な先生にお願いします。	利用者がかかりつけの医師や、家族の希望する医療機関で受診できるよう支援しています。緊急時やいつでも相談できる24時間対応の主治医がおり利用者、職員の安心に繋がっています。かかりつけ医がいない場合には24時間対応の医師に相談しています。ホームには看護師を多く配置しており、主治医との関係を密にし、指示を得ています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師のため日々の健康管理・状態の観察を行いかかりつけ医に報告・連携しながら24時間体制で支援できるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した場合は時間が許す限り面会に行き声掛けを行っています。その際、病院との情報交換を行い入院中の状況を知ると共に不安なく退院できるよう支援・連携しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時・入居後に状態が悪化し重度化した場合、終末期支援の在り方について説明を行っていきます。 入居期間が長期になるとご家族様の気持ちや考えも変化するので、その時・その時に応じてその都度、説明と同意を頂き思いや考えに変化が無いことを確認すると共に、今後の方針を相談しながら意向に沿えるように支援できるよう心がけています。	入居時に利用者・家族へ「重度化した場合の対応に係わる指針」を説明し、同意書を交わしています。利用者が重度になった場合、再度意向を確認し、医師と看護師が連携を取りながら希望に沿った支援を行っています。看護師でもある管理者は各ユニットに配置されていますが、他にも各ユニットに数名の看護師資格を持った職員を配置しており、医療従事者が24時間どこかで勤務していることが利用者・家族、職員の安心に繋がっています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ヒアリング記録を元に事故発生についてロールプレイで勉強会を行い、急変・事故発生に備えています。 また、救急の A・B・C についての勉強会を行っていますが、定期的に行えるように計画をたてたいと考えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練・避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を年2回定期的に行っています。 夜間、出火の想定で避難訓練も実施しています。	消防署の協力を得て、年2回避難訓練を実施し、初期消火、避難誘導、消火器の使い方の訓練をしています。消防署の指導によりカーテンを防災カーテンに変えています。カーペットは利用者の入れかわり時に防災マットに順次交換しています。非常口は警報が鳴れば自動的にロックが解除になります。備蓄は水分や米等を1階の倉庫に保管しています。災害発生時マニュアルはありますが、「火災・地震・台風・水害」ひとつずつに対してホーム独自のマニュアルの見直しを検討中です。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人理念にあるように認知症になっても人権・尊厳・個性を尊重しながら一人ひとりにあった声かけ・関わりを行っています。 特に、排泄や入浴時は不安や羞恥心への配慮を心がけています。 職員に周知できるよう入口に理念を張り掲示しています。	利用者を尊重した丁寧な言葉かけを基本としています。スタッフ会議では「利用者に対する言葉遣い」を議題として管理者より講話をしています。「私たちの人生の先輩に対する気配り・心配り・目配りを忘れずに。些細な言葉でも、度が過ぎれば虐待になります」として接遇向上に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりと時間をかけてコミュニケーションをとり利用者様が落ち着くことができる環境となるように支援しています。発語困難な方は表情や仕草から本心を汲み取るように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者中心の個人のペースに合わせた生活が送れるよう心掛けています。 また、業務優先とならないように気を付けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時等は、ご本人の好きな洋服を選んでもらいオシャレを楽しんでもらっています。 普段は、居室の鏡で髪をとかす等、整容を習慣にしてもらっています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備で皮をむいたりネギを切ったり等、後片付け・味付け等を職員と一緒にできる事を行っています。	食事は、食材が業者から届き、3食とも職員が手作りにしています。嚥下が困難な利用者には、きざみ食やとろみ食にして提供しています。重度の利用者にもできるだけ口から食べることができるように支援しています。職員も一緒に声かけや見守りしながら食事をしています。利用者は食器洗いや盆拭きなど、できることを手伝っています。利用者の提案で干し野菜(大根・人参・ナス・キャベツ)を作り、食材として利用し喜ばれています。今年は渋柿を買ってきて皆で干し柿を作りました。苦手なメニューについても対応可能です。今はアレルギーのある方はいませんが、アレルギーのある方が入居されても対応できるようにしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるカロリー・栄養面での計算された食事の提供。 水分摂取は慢性疾患の方は主治医の指示により量を決めています。 その他の方は1200～2000mlを目安にチェックしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前、含嗽・口腔内の清拭。毎食後の口腔ケアを行っています。 一人で出来ない方は声掛け・介助を行います。 また、ケアが不十分な方は仕上げ磨きを職員と一緒にしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて個々に誘導しています。尿意・便意がしっかりしてきた時は、昼間は布パンツを着用し排泄に自信がもてるように支援するよう努めています。	排泄は、基本的にはトイレで行っています。職員は、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしています。日中、夜間ともリハビリパンツ、オムツを使用する重度要介護の方がいますが、適時適切な誘導やオムツ交換を行っています。また、日中は布パンツでトイレ誘導するなどしてリハビリパンツ対応はできる限り夜間のみにする等工夫をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動・水分補給と共に、腹部のマッサージや腹圧が掛けやすくなるように体操を取り入れようと考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しみにしている方が多いので、ゆっくり楽しんでもらっています。 また、季節の変わり目には健康長寿を願ってゆず湯等を楽しんでもらえるよう考えています。	1階は火木土、2階は月水金と入浴日があるので、利用者の体調に合わせて入浴ができます。状態悪化で入浴が難しい利用者にはベッドバスで、全身の清拭をしています。入浴を好まない利用者には、お気に入りのスタッフの声かけやタイミングで入浴支援をしています。排泄で汚れた場合にはシャワー浴をするなど身体の清潔保持をしています。季節には柚子湯等を楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食後、ホールで過ごす人もいれば自室でテレビを観られる方もおられます。 リビングでお茶を飲む人、他利用者と会話する人等、ご自身の過ごし方で過ごしています。 夕食後は好きな時間に睡眠を取るようにしていますが、なかなか寝付けない人はホットミルクの提供で不安なく休んでいただけるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬に関しては、新しく開始になる時・変更時など、スタッフに説明し間違い・事故のないようにしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご自身のできる事・役割を見出し、活躍の場を作り満足感を得られるようにしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	真夏の時期は外出を控えていますが夏祭り・近隣の駄菓子屋・地藏盆など各個人ができる範囲で行っています。ご家族との外出や外食の協力も得られています。	春の気候のよい時は近所の公園へ桜の花見に行っています。日常的には近所の駄菓子屋へおやつを買いに行ったり、玄関前の花を見に行ったりしています。利用者の重度化に伴い、全体での外出は難しくなっていますので、利用者は家族と一緒に病院や美容院へ行った時に外食するなど外出を楽しんでいます。また、毎月、宗教関係の知人と勉強会へ出かける利用者もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いの管理ができる方は1,000円～2,000円の自己管理を行い散髪代・コーヒー代を個人で支払っています。それ以外はホームで管理しています。必要時、スタッフと一緒に買い物に出かけています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話の使用で好きな時間に会話を楽しんでいます。 年に数回、年賀状・お誕生日などはご家族様にハガキをだしています。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ガラス窓に季節に合った絵を描き利用者様に楽しんでもらっています。 ホールにはテレビやソファを置いて過ごしやすい空間作りを心がけています。 また、利用者様の状態に合わせてテーブルやソファの配置を変えたりして落ち着ける空間を提供できるように努めています。	リビング空間はゆったりと明るく、適温に保たれています。片側中央にキッチンが配置されており、調理の音や匂いが広がっています。食事テーブル他、テレビコーナー、ソファコーナー、2階にはカラオケコーナー等があり、利用者はそれぞれお気に入りの場所で洗濯物をたたんだり、歌を歌ったり、テレビを見たりしてゆったりと過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルなどまた、自室で好きなように過ごしてもらっています。 気心の知れた方同士では、居室にてお茶会も時折みられます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に大切なもの(写真・本・レコード・カセット・仏壇など)を持ってきていただいています。 居室内は、ご自身の好きなように配置されています。	居室入口には、写真を貼ったり、レクリエーションで作った折り紙の作品を飾るなど自室がわかるようになっています。ベッド、エアコン、ロッカー、洗面台はホームが用意しています。入居時には、タンス、テレビ、時計、仏壇、家族の写真、ぬいぐるみ等それぞれの思い出の物を持ち込んで、自分で好きなように配置しています。重度要介護の利用者の部屋には、壁いっぱい家族の写真が貼ってあり、いつでも家族に思いを馳せられ安心して過ごせるようになっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースを広く取りトイレや居室には、その方の状態に合わせて認識できるように工夫しています。 ホールは周囲に手すりを配置してあり安心して歩行できるように工夫しています。 また、ドアは全て引き戸にしてあり出入りがスムーズに行えるようにしています。		